

DCプランナー1級試験対策 D分野 振り返り①

2020年01月26日（日）に実施された「第24回 DCプランナー認定試験」を振り返ってみましょう。

今回は【第5問】のD分野です。【第5問】は、《問63》《問64》《問65》から構成されていました。

今年度は、ライフプランニングに関する問題でした。解法のポイントは、題意にあった係数を適切に使うことです。様々な係数の意味を理解し、問題冊子の巻末資料にある係数表を活用することで正答を導き出すことができます。

《問63》

この問題は、3段階の計算が必要になります。

まず、65歳時点で2,000万円の貯蓄を確保するために、60歳時点ではいくら用意しておくべきか求めます。一定期間後に一定金額に達するために、必要な元本を求める際に用いるのは現価係数です。

運用期間5年、運用利率2%の現価係数は「0.9057」です。したがって、次のように算出できます。

$$\text{※ } 2,000 \text{ 万円} \times 0.9057 = 1,811.4 \text{ 万円} \rightarrow 1,811 \text{ 万円}$$

【別解法】現価係数と逆数の関係にある終価係数を用いて、次のようにも算出できます。運用期間5年、運用利率2%の終価係数は「1.1041」です。

$$2,000 \text{ 万円} \div 1.1041 = 1,811.43\cdots \text{万円} \rightarrow 1,811 \text{ 万円}$$

次に、Aさんが60歳時点までに積み立てる必要がある金額を算出します。その金額は、先ほど算出したAさんが60歳時点で用意しておくべき金額が1,811万円で、Aさんの退職金は1,500万円なので次のように算出できます。

$$\text{※ } 1,811 \text{ 万円} - 1,500 \text{ 万円} = 311 \text{ 万円}$$

最後に、15年後の60歳までに311万円を用意するためには毎年いくら積み立てる必要があるか算

出します。この計算で用いるべき係数は何でしょうか。一定期間後に一定金額を用意するための毎年の積立額は、年金終価係数を用いて求めることができます。運用期間 15 年、運用利率 2 % の年金終価係数は「17.6393」ですので、次のように計算できます。

$$\text{※ } 311 \text{ 万円} \div 17.6393 = 176,310.8\cdots\text{円} \rightarrow 18 \text{ 万円}$$

すなわち、最終的に求めるべき金額は、18 万円となります。

《問 64》

年利 2 % で運用しながら、毎年 100 万円を 20 年間受け取るため必要となる元本はいくらになるか求めます。将来の一定期間にわたって一定額を受け取るために必要な元本を求める際は、年金現価係数を用います。受取期間 20 年、運用利率 2 % の年金現価係数は「16.6785」です。その金額は、次のように算出できます。

$$\text{※ } 100 \text{ 万円} \times 16.6785 = 1,667.85 \text{ 万円} \rightarrow 1,668 \text{ 万円}$$

すなわち、求めるべき金額は、1,688 万円となります。

今回は以上です。実際に試験で解答する場合には、上記※印をつけた計算式を記載する必要があります。どんな時にどの係数を使うのか確実に使えるようにしましょう。

なお、ここに掲載した内容は、受験者が本試験問題の振り返りが出来るように必要な箇所を抽出して作成したものです。したがって、本試験問題そのものではありません。本試験問題を入手したい方は、市販の過去試験問題集をご購入ください。新版の発行は、例年 11 月です。